

## 平成 22 年度 鳥取東高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

重点目標を「しのめプロジェクト」として明示し、目指す方向の共有化が図られている。校長の示す学校経営ビジョンは全職員に浸透し、校務分掌組織は部内での教職員の補完体制ができており、主任クラスが実働しているなど、チームとしてうまく機能している。教職員は日々の教育活動に意欲的に取り組んでおり、士気は高いと感じた。

以下は、委員会として高く評価し、今後も継続していただきたい主な事項である。

- ① 授業改善に向けた個々の教職員の意識は高く、外部人材の活用が積極的に図られ、「鳥取学」校外学習やコミュニケーション技術の向上等、新たな取組みも実施されている。
- ② 部活動の加入率は普通科進学校としては極めて高く、部活動の成績や活動を継続している生徒の進学状況も良く、文武両道が実践されている。
- ③ 全職員で進路指導に取り組む体制が整っており、成果を上げているばかりでなく、パラグラフを活用した進路指導といった新たな取組みも行われている。
- ④ 学校保健計画は綿密であり、生徒自らが健康に関心を持ち、健康管理に努める態度を養わせようとする意図が感じられるとともに、指導・相談に関する組織体制は整備され、心と体の健康面からのサポートが行われている。
- ⑤ 危機管理マニュアルが充実しており、定期的な見直しもなされ、必要箇所はコピーを掲示するなど、活用のための工夫がされている。
- ⑥ 重点目標に沿った予算要求がなされ、施設・設備の安全・維持管理のための点検、改修や営繕要求などが適切に計画されている。
- ⑦ P T A の各種行事への保護者の参加率は極めて高く、土曜日の自習室の開放を保護者の協力で実施するなど、教育活動の支援に保護者が熱心に取り組んでいる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 適切な勤労観・職業観など主体的な進路を選択する能力・態度の育成のための指導が十分とは言えず、「鳥取学」校外学習やパラグラフを活用した進路指導など、新たな取組みによる今後の成果を期待したい。
- ② 適切な校内研修は実施されているが、個々の職員の研修成果を学校の財産にしている取組は十分とは言えず、まだまだ改善の余地がある。
- ③ 管理職は、部活動指導の負荷の平準化や、時間外勤務申請の適正化などについて、特定の者に加重負担か掛からないよう検討していく必要がある。
- ④ 自己評価に関して、各教職員が議論を尽くして意志統一を図るような取組が不足している。
- ⑤ 生徒による授業評価の結果をどう授業改善に生かすかが個々の教職員、教科内の判断に任せられている傾向があり、教職員全体で共有化されていない。
- ⑥ 保護者アンケートは部分的な対象・内容にとどまっており、保護者から直接意見を聞くなど、幅広く意見収集していく必要がある。
- ⑦ ホームページの更新体制を確立して更新頻度をアップしたり、ホームページ自体の周知方法を工夫するなどの取組が必要である。
- ⑧ 多くの保護者や地域からの学校に対する要望などをすくい上げて、それらの意見を学校運営に生かそうとする取組を充実すべきである。